

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo

第169号

令和4年6月

柿生中学校の学区を歩いて

柿生中学校 校長(柿生郷土史料館館長) 石井 秀明



このたび、4月1日付けで、川崎市立菅中学校から川崎市立柿生中学校に着任いたしました石井秀明と申します。柿生郷土資料館の館長に任命され、その責任の重さをひしひしと感じております。微力ではございますが、一生懸命に努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4月24日(日)小雨の中を虹ヶ丘営業所バス停より鶴川に向けて歩きました。遊歩道をぐんぐん下り、早野聖地公園の中を歩きました。斜面のいたるところから、

湧き水が湧き出ており、小川の水量が少しずつ増えていきました。畑の民家には野菜の販売所があり、たけのこが旬であることを知りました。途中、道端には石碑も多く、昔ながらの歴史を感じることができました。

鶴見川沿いを上流に向かって歩き、山沿いにあるお寺や神社に立ち寄りながら、歩いていると岡上の尾根沿いの道で、台車にたけのこを運んでいる方から「たくさんいただいたので、持っていきませんか」と声をかけられました。遠慮なく採れたてのたけのこを1ついただき、お礼を言ってその場から離れました。地域の人たちの優しさに触れることができました。

5月7日(土)はこどもの国から柿生駅まで歩きました。地図を見て興味深いところがあって尋ねてみました。そこは、玉川大学キャンパスの道沿いにあり、川崎市と横浜市と町田市の境界です。道路には境界を示す印がありました(右写真)。すごく特別で秘密の場所に来たような気持ちになりました。

最近、私は県内の神社仏閣や遺跡を地図で探しながら、歩いています。どこにいても掃除が行き届いて、きれいになっています。地域の方々が日々手入れをして、長い間、大切に守られてきたことを実感します。

今後、地域の歴史と文化の発信基地となるよう、皆様のご協力をいただきながら、努力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



かわさきの郷土史を読む 9

伊藤葦天著『川崎新風物詩』・『川崎風土記』(その5)

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員 新井 悟

伊藤葦天氏の『川崎風土記』から、「稲毛三郎重成と枳形城址」を紹介いたします(同書 46-70 頁)を紹介いたします。稲毛三郎重成は鎌倉時代初期に活躍した武将で、枳形城は現在の多摩区生田緑地の枳形山に築かれたといわれる山城です。

今年のNHKの大河ドラマは『鎌倉殿の13人』ですが、麻生区と多摩区には、伝承地もふくめて、鎌倉時代の武将ゆかりの地がたくさんあります。(以下4ページへ続く)

大地に刻まれた
歴史探勝 6

矢上川流域に築かれた古墳時代前期の前方後円墳

村田 文夫(日本考古学協会会員)

前回の最後、弥生中期以降のムラに突如姿が浮かびあがってきたスモール・ボス、彼らを蹴散らかしたビック・ボスの話をしました。今回はビック・ボス?の墓を追ってみました。

鶴見川の支流を挟んで、白山古墳と観音松古墳の両雄がならびたつ

昭和40年、わたしは上司の古江亮仁係長と公用車に同乗していました。幸区塚越辺りを通過中、台地上の小山を指し「君、あれが観音松古墳の一部だよ」と教えてくれました。一方、幸区加瀬に所在した白山古墳は、昭和12年(1937)に温泉旅館の建設に先駆け発掘されました。二つの前方後円墳は、4世紀中頃～後半期に鶴見川の支流・矢上川を挟んで築造された両雄の墓でした。

白山古墳 川崎市幸区南加瀬に造営された全長87mをはかる典型的な前方後円墳。古墳名は、墳頂にのこる白山嗣跡による。被葬者は円形を呈する後円部から三人、前方部から一人が確認されました。では、誰が真のビック・ボス? 人骨が遺されていないので、被葬者が眠る「棺」の埋設位置、副葬品の種類・数量、複数人が葬られていた場合は、その順序などから総合的に推測していきます。

では、白山古墳の場合は一。①最初に発掘された主は、後円部中央の木炭槨の被葬者。理由は、青銅鏡や鉄器類、玉類が豊富に副葬されていたから。彼こそビック・ボスの最有力候補でしょう。②同じ後円部北粘土槨には、鏡や勾玉・管玉類が多く副葬されていたので、①の伴侶であろうか。③の後円部南粘土槨は、支配者の配下にあった女性などが考えられます。

つぎの注目点は一。①の被葬者の棺の深さが地表面から、-3.2mであるのに対し、②・③は-1.2~1.4mで明らかに浅いこと。3つの棺にみる2m前後の高低差は、①の被葬者が真の被葬者で、その後に①の位置がまだ記憶にある10年前後に②・③の被葬者を「追葬」したからであろう。唯一、棺の埋納位置を変えて、前方部の粘土槨に葬られた人物は、①の真正面に位置しているの、わたしはボスの後継に予定していた嫡男であろう、と推測しています。

白山古墳の後円部木炭槨から発掘された青銅鏡が「三角縁神獣鏡」(写真1)で、同じ鑄型の鏡は、卑弥呼との関連で議論となったことがありました。発掘調査が進み、青銅鏡の発掘枚数も増えてきても、「三角縁神獣鏡」は別格。あの世に帯同できた人物はやはり超大物でしょう。

観音松古墳 横浜市港北区日吉に造営された前方後円墳。古墳名は、墳丘に隣接する巨松・観音松による。慶応大学によって昭和13年(1938)に発掘調査されましたが、詳細は不明でした。平成18年(2006)、再び慶応大学が、墳丘残存の可能性のある隣接地を発掘する一方、研究室内で保管されてきた写真・図面類を発見・整理し、発掘時の貴重な情報となりました。そして同大学の安藤広道先生等によって、学術的に分析・報告がされました。そこに記された要旨は、以下のようでした(紙面の関係で要旨のみ。誤りがありましたらお許しください)。

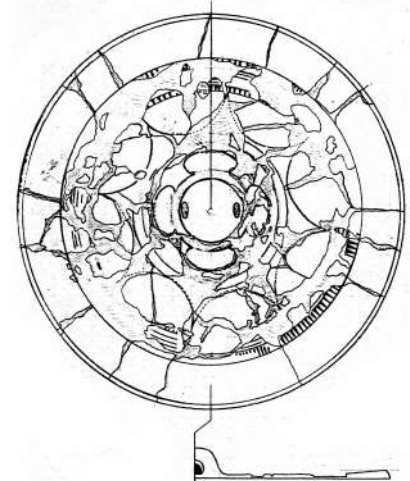
墳形は、白山古墳と同形の前方後円墳。全長は101m、後円部の径は55m、前方部の径は45m、前方部の長さ45m、前方部の高さ約5m。ちなみに白山古墳の墳丘形を、1.1倍にすると観音松古墳と同形になるという。当然、墳丘設計図があったのでしょうか。

被葬者が眠る場は、後円部中央に設営された長さ10m・幅3m前後の粘土槨。そこから内行花文鏡(第1図)のほか、各種の石製品、玉類、銅・鉄製品が発見されました。築造時期は、白山古墳の4世紀後半より若干遅れた4世紀末から5世紀初頭と考えられています。

観音松古墳が築造された矢上台からは、弥生時代中期から古墳時代初頭にいたる大規模な集落跡が発掘されています。ビック・ボスは、弥生時代からの胎動を虎視眈々と注視していたのでしょうか。大形古墳は突如出現しますが、その胎動は、前代の太い五平柱を据えた超大形住まいの主とか、超大形の方形周溝墓の埋葬者などから、わたしは辿る必要があると考えています。



写真1 白山古墳出土の「三角縁神獣鏡」(報告書より)



第1図 観音松古墳の内行花文鏡(実測図コピー。安藤先生の文献より)

シリーズ

教育の歩み 第3部

日本の学校と教育(25)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

女性の高等教育の誕生と特徴

女性の高等教育機関を世界で最初に整備したのはアメリカ合衆国(以下アメリカと略記)でした。アメリカに限らず移民国家は、相対的に女性の社会的地位が高い特徴があります。中でもアメリカは、特に教育制度の拡充に熱心でした。アメリカは50の州によって構成される連邦国家で、州の独自性が大変大きく認められている国です。教育制度も州によるバラツキが大きく、義務教育の修業年限から小学校への入学年齢まで、州によって異なっています。そんなアメリカは、女性の高等教育の推進にも力を入れていたことが特筆されます。最初は1校だけですが、早くも1836年にマウント・ホリヨーク女子専門学校が産声を上げています。やがて南北戦争(1861年～65年)の時代を迎えた頃から東海岸を中心にいくつもの女子大学が誕生します。1865年には全寮制のヴァッサー大学が誕生し、70年代にはウェルズリー大学、スミス大学、ラドクリフカレッジの3女子大学が、80年代にはプリンマー大学とバーナードカレッジが誕生し、後にセブンシスターズと称された東部の名門女子大学が揃うに至ります(注)。この時期、西部地域でも連邦政府の支援を受けて、州立大学が次々に誕生するのですが、その多くは当初から女子学生の入学を認める共学大学としてスタートしています。アメリカはそんな国でした。

明治4(1871)年12月に岩倉欧米使節団一行と共に日本を旅立ち、アメリカで10年間の留学生活を続ける、山川捨松(11歳)、永井繁子(10歳)、津田梅子(7歳)の3人の少女たちがありました。年長の山川捨松と永井繁子は4年の滞米生活を経て、1876年に揃って全寮制のヴァッサー大学に入学しています。年少だった津田梅子は、高校卒業の資格で一度帰国しますが、再度渡米してプリンマー大学を卒業しています。彼女らに少し遅れて、後に日本女子大学校を設立する成瀬仁蔵や、東京女子大学校を設立する新渡戸稲造もアメリカの土を踏み、女子の高等教育の必要性を痛感して帰国しています。

帰国後に女子の高等教育機関の必要性を声高に訴え、その設立に全精力を傾けたのは成瀬仁蔵でした。成瀬は3か年の滞米生活で、教育学を学び直すとともに、積極的に各地の學校や図書館を歴訪、アメリカでは、大都会ばかりでなく各地に公立図書館があること、普通の女性たちが日常的に図書の本を借り返していることに感銘を受けます。彼は、東京に唯一の公立図書館があるに過ぎない日本の教育の遅れ、特に子女を教育すべき立場にある女性教育の遅れを嘆き、女子教育の拡充が必要であることを説いて、女子の高等教育を司る女子大学の早期設立を訴えます(成瀬仁蔵『今後の女子教育』)。成瀬は創設期のアメリカの女子大学が、一時期「教養ある女性こそが、家庭に秩序と温かみを齎し、文化の香りを漂わせて、居心地の良い家庭を実現する」として、高等教育を受けた女性の役割を家庭に結びつけていた点に着目します。彼は女子大学の教育の中心に良妻賢母教育を据えたことで、大隈重信、伊藤博文、西園寺公望、渋沢栄一、岩崎弥之助そして三井財閥など政財界人の共感を得、明治34(1901)年に日本女子大学校を開学、さらに付属の高等女学校の開学にも成功するのです。



女子英学塾開校時の旧友たち。左から津田梅子、アリス・ベーコン、瓜生繁子、大山捨松

津田梅子が創立した女子英学塾(のち津田英学塾に改名)は、英語専門学校の道を歩みます。英学塾は、戦後に津田塾大学として大発展を遂げるまで、常に資金難に悩まされ続けます。それは、アメリカの女子大学が、家庭婦人の育成から女性の自立と職業婦人の育成に舵を切ったことに合わせ、女性の自立を掲げた自由でハイレベルの授業を提供するという、津田の理想の実現を目指したからでした、そのため初年度は10名の入学者しか集まらず、その上授業について行けず中途退学者も相次ぐというありさまでした。入学者はその後増えてゆきますが、それに伴って増加した教員の給与の支払いに難渋します。津田が紐付きになることを恐れて、国内の寄付に頼ることを頑なに拒否して、留学を共にした親友の大山捨松(旧姓山川)と瓜生繁子(旧姓永井)が集める資金と、アメリカ人の親友アリス・ベーコンとアナ・ハーツホンの伝手で、アメリカで集めた資金しか受けとろうとしなかったからでした。そのため、アリスやアナ、大山らは、津田と共に生涯無給だったのです。(続く)

(注) 7大学のうち、ラドクリフカレッジは後にハーバード大学と合併し、卒業生はハーバードの学位を授与されました。ヴァッサー大学はやがて男子学生も受け入れて共学化し、現在も偏差値の高い超難関大学として有名です。他の5大学は現在も女子大学として健在です。



創設当初の日本女子大学校家政学部の実験風景

(1ページから続く)

「稲毛三郎重成と枳形城址」

伊藤氏の「稲毛三郎重成と枳形城址」は、郷土史研究に関する一篇の調査研究物語の趣があります。『川崎風土記』の中でも長編の大作です。内容も多岐にわたりますが、ここでは他の文献では見られない、枳形城に関するトピックを取り出してご紹介します。

重成は、元は小山田姓ですが、平家追討で功をあげ、その恩賞として稲毛の大部分を賜り、稲毛三郎重成と称するようになります。北条時政に才能を認められ、時政の後妻の牧の方の末の娘を妻とします。時政の娘なので頼朝の妻政子の異母妹となり、頼朝と重成は義理の兄弟の間柄になります。大変な権勢を誇ったことでしょう。その後、妻に先立たれて大変哀しみ、剃髪して入道になりました。妻の供養のために、相模川への架橋を計画し、実現させました。伊藤氏の記述は、重成の一代記に関して文献を博捜し詳細をきわめます。これはその後各所で語られている重成情報の集大成の観がありますので、ぜひ本文にあたって頂きたいと思うのですが、ここでは重成入城前の枳形城に関してユニークな記述をご紹介します。

それは明治の元勳松方正義の先祖の松方重時が一時枳形城にいたという内容のものです。松方家の先祖は川越氏の出で小山田に移り、その後枳形に転じて、藤原道家の養子となって松方姓に替え、島津忠久に従って薩摩に移住したという伝えが、松方家にはあるそうです。重成の前の枳形城の住人が松方重時ということになります。正義の没後、伝記を作成するために編まれた記録類が国立国会図書館に寄贈されていて、伊藤氏はそれを実見したと語っています。その中に「枳形山及其城址」の一篇があり、これには付図がつき、それが大山柏氏作成によるものだという事です。伊藤氏は、「参謀本部の地図を局部的に引伸ばしそれに城址とか物見櫓とか館跡とかを朱線で表した全く大山柏氏(大山巖公の令息)の想定図であるのには大に失望せざるを得なかった。」と書かれています。筆者からすると、現在とは比べようもないほど自然の残された丘陵を、大山柏氏(氏は、著名な考古学者)が観察され、その所見が記載された図であることになり、大変な興味がわいてきます(筆者はまだ未見の資料ですが、これは将来調査をしてみたいものだと思います)。枳形城については、現在遺構の遺存も認められず、果たして実態がどうであったか不明のことが多い場所です。郷土史を読むことで、思わぬ情報にあたる好例だと思います。

冒頭、鎌倉時代の武将ゆかりの地が多いと書きましたが、市内にはこのほかにもたくさんの場所があります。そのうちのひとつが多摩区の長尾にある、あじさいで有名な妙楽寺です。この寺は鎌倉時代には威光寺と呼ばれていたと考えられています。威光寺は、源氏代々の祈祷所で、かつて大伽藍があったといわれています。源義朝が殺されたとき、頼朝は伊豆の蛭ヶ小島へ流され、牛若は鞍馬にやられ、六男の今若は出家させられて全成(ぜんじょう)の名でこの威光寺に隠されたといわれています。そして平家滅亡後、全成を威光寺の本坊としています。この全成の妻は、北条政子の妹です。この二人は、現在放映中の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にも登場し、活躍しています。

ご興味がある方のために、川崎市立図書館の蔵書をご紹介します。『川崎新風物詩』は、川崎、中原、高津、多摩、柿生の各図書館に所蔵されています。柿生には貸出用がありますが、ほかは貸出禁止となっています。『川崎風土記』は、川崎、幸、中原、高津、多摩、麻生の各図書館に所蔵されています。高津・多摩には貸出用がありますが、ほかは貸出禁止となっています。(2022(令和4)年1月4日時点)。なお伊藤氏には多くの著作があります。このうち、川崎市立図書館に所蔵されているものをご紹介します。郷土史関係の著書には、『稲毛三郎重成と枳形城址』(1955)、『掘出した伝永徳の屏風』(1956)、『中野島開発記』(1957)、『稲毛郷土史』(1970)があります。さらに文学関係の著作として、『六月之旅』(1965)、『葦天随筆集』(1969)、『穂 一伊藤葦天句集一』『多麻澁 一伊藤葦天第二句集一』(1971)、『多麻澁以後 一伊藤葦天遺句集一』(1975)ほかが所蔵されています。

参考文献

伊藤葦天 1958『川崎新風物詩』かわさき新報社

伊藤葦天 1963『川崎風土記』川崎新聞社

柿生郷土史料館催物案内【参加自由、入場無料】

◎開館日:6月11・18・25日(毎土曜日) 7月3・10・17・24日(毎日曜日)

【お詫び:先月号でお知らせした6月の開館日に誤りがありました】

【お知らせ】第84回カルチャーセミナー「秩父流平氏 畠山重忠と稲毛重成～その鉄並びに杉山神社とのかかわりを追う～」は新型コロナウイルス禍が収まるまで延期とさせていただきます。